

## 介護力向上委員会

かざぐるまと本体での実績から

介護事業部 かざぐるま  
リーダー  
佐藤勝利

### 今年度の介護力向上委員会の 取り組みとして

1. おむつゼロへ
2. 水分平均摂取量1500ml目指す

### 介護力向上委員会の取り組み

おむつはずしのための「4つのケア」とは

水分

- ・意識レベルの向上  
⇒ 便意と抑制
- ・起立大腸反射
- ・トイレへの移動手段

歩行

- ・意識レベルの向上  
⇒ 便意と抑制
- ・起立大腸反射
- ・トイレへの移動手段

4つのケア

下剤の中止

- ・生理的排便
- ・下剤の習慣化は  
便秘の原因
- ・下剤による副作用

トイレ排便

- ・座位排便
- ・トイレという環境を  
脳が認知して「排便  
指令」を出す。

**目標：定時排便**  
排便リズムが一定化できればおむつは不要

### おむつゼロの定義

「排便」をおむつまたは類似品(尿取りパット等)で処理することなく、一般トイレまたはポータブルトイレで行うこと(5回中4回一般トイレまたはポータブルトイレでの排便)。

### なぜ水分平均摂取量1500ml 以上必要か

水の出入り

(出)		(入)	
	(ml)		(ml)
尿	1500	飲水	1500
不感蒸泄*	700~1000	食事	700~1000
便	200~300	燃焼水	200~300

\*呼吸(呼気)の水分を含む  
<出>とある項目は、これだけ捨てないと生きていけないという水分量。  
尿：体の老廃物を捨てる役割。尿が出ないと尿毒症になる。

不感蒸泄：体内細胞は代謝の過程で38℃の熱が出る。その熱をそのままにしておくと体内に蓄熱し温まっていく。温度がある程度上がると死に至る。その為温度を下げるために水がいる。これが不感蒸泄で体温調節をしている。

便：老廃物を捨てる1つの道具だが、便の形を整えるために水を含んでいる。

この3つを合計した水分量が最少で2400cc、最大で2800cc程の水が出ていく。

おむつをしたとたん音を立てて『人間』が崩壊していく

誰でもオムツの中に排泄している自分を認めたくないもの。  
「おむつをするようならもう死にたい」、「人に見られたくない」  
「不快でたまらない」

上記のような高齢者の本音が届かないまま、機械的なおむつ交換がされる事により、時には便いじりや暴力といった行動となって表れる事も有ります。

人間としての尊厳を傷つけられることによる認知症状の悪化も起こります。

また、精神的苦痛だけではなく、おむつかぶれ等の皮膚トラブル、尿路感染といった肉体的苦痛も伴います。

今年度かぎるまでは19名中4名がオムツを使用しており対象者として取組みました。

1.水分摂取量増量への取組み

- ①看護師との水分摂取量増量へ 向け 検討(水分摂取制限者3名1000ml程度)
- ②水分提供のコップの変更200⇒250mlへ
- ③飲み物の種類を増やす
- ④入力漏れの確認



前年度との水分摂取量の比較

・H26年度、H27年度平均水分摂取量の推移及び比較

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
26年度	992ml	1183ml	1190ml	1212ml	1217ml	1210ml
27年度	1282ml	1357ml	1293ml	1459ml	1494ml	1443ml
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
26年度	1224ml	1298ml	1256ml	1288ml	1281ml	1291ml
27年度	1484ml	1539ml	1575ml	1592ml	1608ml	

2.トイレでの排便に向け

- ①対象者4名の方の排便時間、間隔等の把握
- ②トイレ誘導の回数を増やす
- ③定時でのトイレ誘導

3. 追加排便薬の中止

- ①追加排便薬を使用する間隔を空ける



おむつ外し対象者4名のお客様は3月に取組結果を送付し審査結果待ちです。

本体での取組み

- 1. 各ユニットの毎月の水分摂取量の把握及び水分摂取量の増量へ
- 2. イレウス(腸閉塞) 予防
- 3. 排便薬の減量
- 4. 運動

各ユニット平均水分摂取量推移

さくらユニット	ふれあいユニット	ひまわりユニット
4月 1037ml	4月 1246ml	4月 1354ml
5月 1063ml	5月 1247ml	5月 1467ml
6月 1029ml	6月 1235ml	6月 1354ml
7月 1181ml	7月 1273ml	7月 1460ml
8月 1194ml	8月 1288ml	8月 1322ml
11月 1042ml	11月 1363ml	11月 1277ml
12月 1036ml	12月 1186ml	12月 1238ml
1月 1015ml	1月 1171ml	1月 1198ml
2月 1276ml	2月 1236ml	2月 1266ml

  

きららユニット	いこいユニット	ははみユニット
4月 1131ml	4月 1218ml	4月 1117ml
5月 1068ml	5月 1186ml	5月 1130ml
6月 1053ml	6月 1205ml	6月 1158ml
7月 1167ml	7月 1201ml	7月 1195ml
8月 1177ml	8月 1186ml	8月 1136ml
11月 1128ml	11月 1151ml	11月 1255ml
12月 1140ml	12月 1143ml	12月 1151ml
1月 1348ml	1月 1190ml	1月 1151ml
2月 1370ml	2月 1147ml	2月 1288ml

  

はたるユニット
4月 1150ml
5月 1077ml
6月 1180ml
7月 1229ml
8月 1163ml
11月 1203ml
12月 1190ml
1月 1290ml
2月 1281ml

介護力向上研修での歩行率は16施設中2位

本体は介護技術委員会で歩行に力を入れている為歩行率が高く介護力向上研修に参加している16施設中本体は2位と高く評価されています。



## 今後の取り組み

かざぐるま

- ・トイレ誘導の継続でオムツゼロの継続
- ・水分摂取量のさらなる増量
- ・運動、歩行の実施

本体

- ・水分摂取量の増量
- ・おむつ外し

## 取り組んでみて

今回で介護力向上委員会が始まって3年目になります。  
初年度は水分を摂っただけで何が変わるんだろう、変わる  
わけないと思いが有り積極的には取り組んでいませんでした。

入院者、熱発者多発



M様対象水分量増量



傾眠、オムツ使用

覚醒状態も良くなりトイレでの排便回数も増えた



他のお客様

トイレでの排便増、入院、熱発者減少

## 取り組んでみて

お客様に貰った物を、今年度はお客様に、お還したいとの  
思いで取り組み始めました。

かざぐるまでも介護力の取り組みは3年目になり、前任者が  
土台作りを行ってくれ、介護力の経験職員も4名と環境的にも  
恵まれました。対象者のお客様が立位保持出来ない方の  
で2名介助でなければトイレ誘導する出来ない為、時間を決  
めても1人だからと、誘導出来ない、事が今年度は職種  
関係なく全員で取り組めた事で良い結果が残せました。

入院者数、入院日数も前年度と比べ減少しています。入院  
者前年度9名、今年度4名

## 取り組んでみて

今回の経験で職員1人1人が「やればできる」と自信が  
ついたと思います。今後も成功例等、慈恵園全体で共有し  
お客様の生活が少しでも良くなるように取り組みたいと思  
います。

## 最後に

水分1500ml以上摂取、歩行、運  
動、常食化及びトイレでの排泄、お  
むつ

外しはあくまでも手段あり

目的は

**お客様の生活の質の  
向上、笑顔の為**

ご清聴ありがとうございました